

第71回 令和7年8月27日（水）

「自然と環境のちがいとは？（あくまで個人的な見解ですので「学術的な定義」があったらごめんなさい）」

最近毎日のようにクマに襲われたニュースを目にします。今まで住んでいた山から食べるものがなくなって人里に下りて人間と遭遇していると言われています。

クマの居住地を奪ってしまったのは人間だから、駆除することを反対する人々もいるそうです。生命を守る正義と、動物愛護の正義が衝突しているわけですから、妥協点が見つかるわけがありません。

環境保護とか環境破壊などの言葉を聞く機会が多くなっています。その要因は「地球温暖化」でしょう。10年に一度の高温というフレーズを年に何度も聞きます。来年「冷夏」になるイメージはまったくわきません。もう6月から10月は「夏」という概念が定着するのではないかと思います。

この場合の「環境」は「人間の住みやすい環境」とイコールです。人間にとて快適な春や秋が明確に訪れる環境、日本の農業のために適度な雨が降る環境、台風などの災害が起きない環境が求められています。人間にとてありがたい環境という意味があるので、農業が行われていない縄文時代なら違う環境を求めていたのかもしれません。

一方「自然」というのは人智を超えたものです。人間がコントロールできるものではありません。災害は自然が起こすものなので人間にはどうしようもない。災害が起きた時どうするか準備することが精一杯です。

人類が種として繁栄し、地球上にあふれているのも「自然」から見れば他愛のないものかもしれません。「せいぜい楽しめ。どうしても邪魔になったらさっさと滅ぼすよ。」くらいに考えているのかもしれません。

恐竜が滅亡したように「自然」が本気になれば我々はあっけなく消えてしまいます。例えば突然氷河期になれば食料はあっという間に尽きてしまうでしょう。

クマが増えていることが「環境」によるものなのか、それとも人類に天敵を増やそうとする「自然」の仕業なのか。「自然」は恒常性を持っているので行き過ぎた環境破壊にはいつか鉄槌を下すと思います。

温暖化や大雨が「そろそろ人類という種を滅ぼすことにするか」と自然が考え始めた前兆ではないことを祈ります。クマが教えてくれることに早く気付くべきかもしれません。